

みんなで取り組むヒートアイランド対策の具体的取り組み

現在、様々なシミュレーション等の調査・研究による解明が進められているものの、ヒートアイランド現象を緩和するための取り組みの効果については、必ずしも明確にはなっていないのが実情です。

このため本書では、下記に示すように、ヒートアイランド対策の多くが、地球温暖化対策の中に包括されると位置づけ、地球温暖化対策の一環として捉えられている様々な取り組みが、ヒートアイランド対策の一助になるものと認識した上で、みんなで取り組むべき具体的な環境配慮行動（環境によいこと）のアイデアについて提案しています。

ヒートアイランド対策に関する行動 < 地球温暖化対策に関する行動 ≡ 環境配慮行動（環境によいこと）

家電等の買い物では、ちょっとした情報が市民の環境配慮を促す

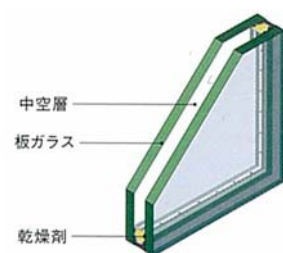


環境配慮行動の継続には高い意識と行動力が必要ですが、省エネ家電を使用することで、継続的に環境保全に貢献することができます。市民に対して省エネ家電等の購入を促すには、小売店店員による環境保全効果と経済性に関する簡単な説明が有効です。このように市民の行動に直結する“キーパーソン”（家電販売店の店員など）に着目して、効果的な情報提供を進めていく必要があります。

← 省エネ家電に関する情報提供

大きな買い物（不動産等）では、じっくり環境配慮への大切さを説明

高額な商品（主に建物）の購入や維持管理に際しては、例えば、環境配慮型の施設（環境共生型住宅）の持つ環境保全効果、外断熱やペア断熱ガラスの導入による省エネ効果や光熱費削減効果などについて、市民や企業（建設関連）が総合的に判断できる情報を詳細に提供していく必要があります。



↑ ペアガラス
※ペアガラスを採用することにより一層の冷暖房の使用減少を促す
出典：三菱地所資料



←環境共生住宅
認定マンション

出典：株式会社大京資料

“健康づくり”と“環境配慮”は、ひとつのこと



↑ コミュニティサイクル（つくば市）

徒歩や自転車は、市民の健康づくりに役立つと同時に、エネルギーを消費しない環境にやさしい移動手段です。徒歩や自転車の積極的な利用を促進するまちづくりを進めると同時に、健康づくりと環境配慮が同時に実施できることを広報していく必要があります。



← 緑道でのウォーキング

風土に合った暮らしは 環境にもやさしい

風土に根ざした文化や暮らしは、環境に大きな負荷を与えず、快適に過ごすための先人の知恵。これを温故知新の精神で新しい生活スタイルとして見直し、普及・啓発を行っていく必要があります。



↑ 路地の鉢植えへの水やりには打ち水効果もある（現状では鉢植え設置が不法占用にあたる可能性が高く、規制緩和も含めた議論が必要）

“趣味”の楽しみが環境配慮につながる



市民が日ごろから趣味として楽しむガーデニングや家庭菜園は、まちに緑を増やします。このことによる環境保全の効果を市民に知らせるとともに、市民農園等の整備やガーデニングコンテストなどを通じて、市民のより積極的な取り組みを支援していく必要があります。

← なんばパークス屋上菜園

出典：『Landscape & Greenery 2005』
（インタラクシオン・環境緑化新聞発行）

シンプルライフ、環境にやさしい次世代の暮らしを

良質で洗練されたものを長く、大切に使い、時間と空間にゆとりを持って暮らす、都会を離れ田舎暮らしを楽しむといったシンプルライフは、無駄な消費を減らし、環境負荷低減につながります。このことに着目し、環境にやさしい、次世代の生活スタイルとして、新たな情報発信を積極的に行っていくことが必要です。



田舎暮らしのイメージ→

環境配慮行動は、幼いころからの学習で“日常のくせ”に

“環境に配慮した取り組みは面倒”とされる市民の価値観を変え、行動の継続を促すためには、教育も重要です。

学校・保育施設での環境教育、地域での生涯学習などを

通して、環境に対する価値観の醸成を図っていくことが重要です。



保育園の環境カルタ↑
(名古屋市)



まずは、環境に興味を持ってもらうこと そのきっかけづくりが大切

環境への配慮は大切なこととわかっていても、取っ付き難いという印象を持たれがちです。イベントや映画、アニメーションなどを通して、「楽しいこと」「おもしろいこと」として興味を持って体験できるきっかけづくりに取り組むことが大切です。



打ち水大作戦 2004→

出典: Copyright(c)2003-2004 打ち水大作戦本部、打ち水写真コンテスト(大賞作品)
ホームページアドレス(<http://www.uchimizu.jp/kawaraban.html>)